

吉野川環境マップ

干潟を生みだし維持している川や海そして陸地のちよっしと変化は干潟の生態系に非常に大きな影響を及ぼします。このようなことから私たちは、干潟が吉野川や周辺の生態系を含めた環境の変化をいち早く知らせてくれる「モニター」あるいは「警報装置」となるのではないかと、そんな期待を干潟に抱いています。ぜひいっしょに干潟観察を継続しておこなっていきましょう。そして、みんなの宝物である吉野川河口干潟を守り、次

へつなげる方法をみつけたいと思います。吉野川の河口に行けば、きっとわかります。ここは、長い間、人の暮らしと自然とが絶妙なバランスを保ちつづけてきたところだということを、私たちがおいしい水を飲み、空気を吸い、おたからい気持ちで豊かに暮らしている、そんな当たり前のことの有り難さや願いを思い出させてくれます。ひとりで多くの人に、吉野川河口干潟のすこやかに気がついていただけたらと思います。

第十堰で全国に名をさせた吉野川

河口から第十堰の14.5kmまで広がる汽水域は、吉野川の多様な生き物や暮らしをつないでいます。ここには、今日、失いつつある日本の河口本来の姿があり、広大な河口干潟が残されているのです。河口域の約500haは、第6回ラムサール条約締結国会議（アリスベ、1996年）で立ち上げられ



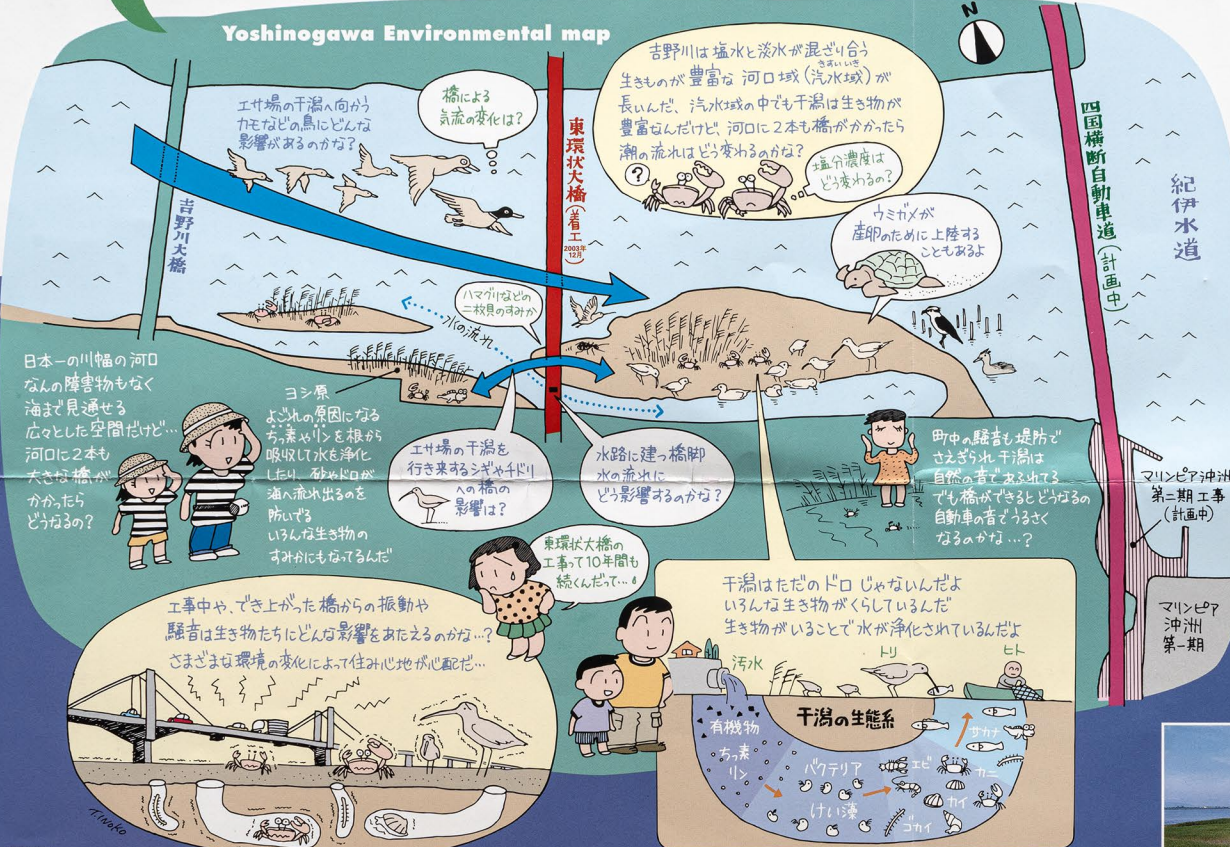
湿生生態系が保持されています。そして、バードウォッチングや散歩、子どもたちにとっては、豊富な生きものと戯れる天然のあそび場として、人々に大きな安らぎをもたらしています。県都の入口にこんなに素晴らしい河口干潟の自然をもっているところはきっと他にはありません。

た「東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク」に日本でも初に参加した干潟であり、将来的にはラムサール条約の登録湿地に指定されるべき国際的にも重要な地域なのです。この河口干潟には、ダイゼン、メダイチドリ、ハマシギなど渡り鳥の飛来数が多く、これまでに160種以上の野鳥が観察され、なかでも、絶滅危惧種のカラサシギ、クロツラヘラサギ、ツツガモ、ヘラシギ、カラフトアオアシギ、セイタカシギ、ズグロカモ、ホウロクシギ、コアシガンなどの飛来が記録されています。さらに、レット・データブック記載種であるシオマネキやリスハシムウなど、さまざまな貴重種が豊富に生息しています。ウモレベンケイガニ、クダテガニ、ヒロクチカコガイ、カワアイガイ、ハマグリ……今や各地の干潟から姿を消しつつある生き物がご当地に見られる場所でもあります。

県庁から10分ほどの距離にあって、大きなヨソ原をともうう広い河口干潟は、市街地のすぐそばにもかかわらず、今、良質な海苔やシジミを産出しており、第一級の健全な干

ところか、その吉野川の生命をつくる、河口干潟は開発により危機に瀕しています。河口に集中している、複数の大型公共事業（東環状大橋・四国横断自動車道道路橋・マリニピア沖洲第二期工事）によって、河口干潟の自然は切り裂かれようとしています。そして、河口干潟の中枢部を通過し、豊かな自然とその景観に大きな影響を与えることが心配される東環状大橋の建設が、今まさに着工しようとしています。このことに大きな痛みと悲しみと怒りを感じつつ、橋を架けることの意味を干潟と私たちの生活との「つながり」を原点として、これからも開けていきたいと思います。

Yoshinogawa Environmental map



日本一の川幅の河口
なんの障害物もなく
海まで見通せる
広々とした空間だけだ
河口に2本も
大きな橋が
かかると
どうなる?

ヨソ原
よしの原因になる
ち、葉を根から
吸収し水も浄化
した。砂やドロが
流れ出るのを
防いで
いる生き物の
すみかにもなるんだ

工場の干潟を
行き来するシギやチドリ
への橋の
影響は?

水路に建っ橋脚
水の流れに
どう影響するのかな?

田中の騒音も堤防で
さえぎられ、干潟は
自然の音で暮らして
ても、橋ができてどうなる
の自動車の音でうるさ
くなるのかな…?

干潟はただのドロじやないんだよ
生き物たちがくらしているんだ
生き物がいることで水が浄化されているんだよ

工事中や、でき上がった橋からの振動や騒音は生き物たちにどんな影響をおとせるのかな? ごまごま環境の変化によって住み心地が心配...

●イラスト：金子知子さん
●写真撮影の協力：佐野正さん、吉田利人さん、鶴見寛典さんらにご協力いただきました。

吉野川干潟を訪れる貴重な渡り鳥

(写真/鶴見寛典)

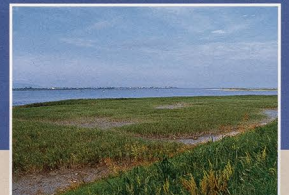


●ズグロカモ カニが大好きなシギのカモです。
●赤信部をつけたホウロクシギ 河口からマリニピア沖洲の入り江に干潟が広がっています。

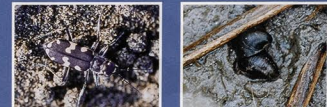


●カラフトアオアシギ 世界で1000個しかない希少なシギです。
●クロツラヘラサギ しもじのよさを活かして石をばらかきながらエサをとります。
●カラサシギ アジアの一部にしか見られない珍しいシギです。

吉野川干潟では当たり前にもみられるけれど、今や日本の干潟からはとんと姿を消しつつある生き物



●ヨソ原 広いヨソ原をともうう干潟は全国的にも貴重。ヨソ原の水質の浄化を促しています。



●リスハシムウの 干潟の遠浅な内人がくわたり、卵がつかないままに産み落とされています。
●ヒロクチカコガイ 入り江と干潟の境目に多いことが多く、



●フトヘナタリ (写真/和田一) 卵が壊れ、卵と死んだふりをする。(写真/和田一)



●ウモレベンケイガニ 動きが鈍く、捕まると死んだふりをする。(写真/和田一)

干潟の役割



●コメツキガニ カニは干潟の底に生かされる有機物を通して生きて、産卵をします。こうやって産んだ卵や干潟の生き物は、水をきれいにするのに役立っています。



●貝殻の中で泳ぐ 稚魚の群れをみつた 干潟は生き物たちのすみかといわれています。



●中洲に広がる泥干潟 干潟の表面に堆積する経年堆積物と光合成によって藻類を産出。それ自身産出の生物のすみかとなる。



●シオマネキ 大きな甲殻をもつのが特徴。(写真/和田一)

Yoshinogawa Estuary

吉野川の干潟とひとの暮らし



●潮干狩り ●刺し網漁 かつては「吉野川行」と呼ばれるほど第一級の自然豊かな漁場だった。 ●大橋のそばに残る 第一級の自然 散歩したい毎日にたくさんの人々が訪れる。 ●干潟のかんさつ会 たくさんの生き物たちを直接観察しあえる。 ●海苔の養殖 吉野川の養殖業者さんだ。 ●大橋のそばに残る 第一級の自然 散歩したい毎日にたくさんの人々が訪れる。